



中学校社会科資料

こんな
実践

あんな
実践

授業にピタッ!とデジタル教科書

地理

- ①世界の諸地域…p.02
- ②日本の諸地域…p.04

歴史

- ①古代の学習 …p.06
- ②近代の学習 …p.08

公民

- ①現代社会 …p.10
- ②政治 …p.12
- ③経済 …p.14

授業にピタッ！とデジタル教科書

地理

① 世界の諸地域の学習でのデジタル教科書活用例

～ ICT 大国インドとアメリカ合衆国の関係は？

(国立大学附属中等教育学校 教諭)

◆**単元名**：第2編 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域 1節 アジア州

「⑥発展する産業と社会」(教科書 pp.60-61)

◆**本時の目標**：

インドの食を切り口として、南アジアの農業の特徴を概観する。既習事項である時差の学習内容と関連づけながら、ICT産業の発展について理解させる。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	【問】サッティヤジートさんのお話の()を埋めてみよう。 【問】ヒンドゥー教徒が多く暮らしている国はどこだろうか？	・教科書 p.128 のサッティヤジートさんのお話の「牛」「ビーフ」「インド」を空欄にした文章を載せたワークシートを配付する。 ・教科書 p.44・LL14～「南アジアで…存在です。」を読ませ、既習事項を復習する。	・デジタル教科書 p.128 サッティヤジートさんのお話をスクリーンに投影し、答え合わせをする。 ・デジタル教科書 p.45 資料⑤をスクリーンに映し、本時がインドの学習であることを印象づける。
展開 (35分)	●南アジアの農業に関する主題図から、インド国内でのカレーの食べ方の地域性をとらえる。 【問】インド国内で小麦と米の産地を確認しよう。 【問】インドでは「ピンク革命」(第一次産業の変化)が知られている。これはどのような変化を意味するのだろうか？ ●アメリカ合衆国との位置関係から、インドでICT産業が発展した理由をさぐる。 【問】インドとアメリカ合衆国の位置関係から分かることはどのようなことだろうか？	・カレーとナン(チャパティ)の関係から、インドではカレーライス以外の食べ方があることに気づかせる。 ・インドでは宗教上の食の禁忌との関係から、ブロイラーやヤギ肉の生産が拡大している。肉の色から「ピンク革命」とよばれている。 ・ジュートについて解説する。 ・インドでのICT産業の発展の背景として、イギリスの植民地であったことから英語が話せること、理数系教育が盛んであること、アジア諸国のなかでも比較的賃金水準が低いことを確認する。	・デジタル教科書 p.60 資料③(①)から稲作と小麦の凡例を表示し、その分布を確認する。 ・時間に余裕があれば、ジュートの動画を視聴する。資料④からジュート生産の大部分がインドとバングラデシュで行われていることに気づかせる。 ・デジタル教科書 p.61 資料⑥と p.20 資料③を並置(③)させ、インドと合衆国の位置関係をとらえさせた上で時差の原理を復習する。 ・ベンガルールが午前9時のとき、サンフランシスコは何時になるか、経度差をもとに計算させる(④)。
まとめ (10分)	【問】インドのマクドナルドで販売されているハンバーガーの肉は何が使われているのだろうか？	・多国籍企業のマクドナルドが地域に合わせた食材を使ってハンバーガーを販売(インドではチキン)していることに気づかせる。	・デジタル教科書 p.101 資料④(②)を表示する。インドのマクドナルドの写真を確認する。

【ワンポイント】 たかのか著『ガンジス河でバタフライ』(幻冬舎文庫) には、食堂でカレーを食べる場面やカースト制度、ヒンドゥー教の聖地バラナシでの沐浴などの様子が中学生にも理解しやすい文体で描写されており、授業づくりの参考になる。

◆指導にあたって：

○教科書に収録されている多彩な資料を結びつけて活用することで、授業の展開に変化が生まれる。本時
 でいえば、p.128の「カレーからみた食文化」、p.20の「ロンドンと東京・ニューヨークの時刻と位置
 の関係」、p.101の「アメリカのハンバーガー会社の店舗の広がり」がそれに該当する。

○2008年版の学習指導要領では、「世界の地域構成」「日本の地域構成」の学習が各諸地域学習の冒頭に
 位置づけられていたが、今回の学習指導要領では「世界と日本の地域構成」に統合されたため、地理的
 分野の最初の単元で時差の学習をする、以前の形に戻った。生徒の立場からすれば、数学科の正負の数
 の学習と並行する形で時差の学習をすることになり、時差の原理を正しく理解させるには指導面での
 一定の工夫が求められる。可能な範囲で、「世界の諸地域」の学習の中でも時差の計算を織り交ぜ、繰
 り返し復習できるようにするのも一つの方法である。

○インドでは「緑の革命」による高収量品種の導入による食料自給達成の段階から、国内のミルク需要に
 対応する形で進展した「白い革命」（ヒンドゥー教徒は牛肉を食べないが牛乳は飲む）を経て、ブロイ
 ラーなどの食肉生産の成長（肉の色から「ピンク革命」とよぶ）へと農業をめぐる構造が大きく変化して
 きた。この変化をおさえておくことで、「まとめ」のハンバーガーの話題につなげることができる。

◆デジタル教科書活用のねらい：

○本時の「展開」では、ベンガルールとサンフランシスコの時差を求めることで、昼夜が逆転する両都市
 間で両国の企業が情報をやりとりすることで切れ目なく業務を継続できることを実感させたい。「東経」
 と「西経」にまたがる二都市間の経度差は、各都市とロンドン（本初子午線）との差を求め、それを合算
 することになる。教科書 p.20 資料[3]の図が回転するしかけを上手に利用することで、生徒の理解が深
 まるものと思われる。

1 南アジアの農業分布

★主題図を凡例ごとに着色して表示することで、分布に注目させる(①・②)。

2 アメリカのハンバーガー会社の店舗の広がり

3 ロンドンと東京・ニューヨークの時刻と位置の関係

★インド・アメリカ合衆国の位置と時差を並置して関連づけて考えさせる(③)。
 …資料を並べて比較させることで、学習効果が向上する。
 ★地図が回転することで、都市の位置と時差を関連させて学習することができる(④)。

4 アメリカのハンバーガー会社の店舗の広がり

◆**単元名**：第3編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 2節 中国・四国地方

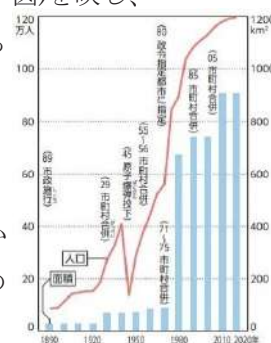
「②中国・四国地方の中心 広島市」(教科書 pp.192-193)

◆**本時の目標**：

中国・四国地方の地方中枢都市である、広島市の都市化によって起こる課題について理解する。地形図の新旧比較から、広島市の都市の発達について歴史的な変化を読み取ることができる。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	【問】この写真(p.193 資料[4])は今日の授業の舞台となる都市です。この都市はどこだろう？ ●第2章「③変化に富む日本列島の地形(2)」(pp.154-155)で学習した日本の地形を復習し、次に p.188 資料[3]に注目させる。 【問】広島市の地形の特徴は？	・原爆ドームが背景に写っていることから、多くの生徒が広島と気づく。 ・画面下方に海が見えることを強調し、三角州と扇状地の違いを整理する。	・デジタル教科書 p.193 資料[4]の写真をタイトル表示せずにスクリーンに投影する。 ・デジタル教科書 p.188 資料[3]の写真をスクリーンに投影する。
展開 (35分)	●教科書に掲載された地形図を参照し、広島市の変化をグループごとにとらえさせる。 【問】1898年ごろの広島市(広島市)の地形図を見て気づくことは？ 【問】その後、広島はどのように変化したか、地形図から変化を読み取ろう。 【問】地方中枢都市(教科書タイトル「中国・四国地方の中心」を確認)となった広島市はどのような課題を抱えるようになったのか？	・軍都「広島」の発展を解説する。 ・デジタル教科書の収録データをもとに資料(1898、1950、2012年の地形図)を作成し、配付する。 ・グループで地形図の変化を読み取る。生徒の意見を板書する。 ・原爆投下により「ヒロシマ」がどのような被害を受けたか、その後どう復興したかを解説する。	・デジタル教科書 p.192 資料[1]をスクリーンに映す。 ・p.193 資料[3]のスライド機能を活用し、2枚の地形図を並べ、両者をスライドさせながら比較する。 ・p.192 資料[2](下図)を映し、折れ線グラフからは1945年の原爆投下による人口減少を確認する。さらに棒グラフからは市域の拡大の様子を確認する。
まとめ (10分)	●2014年の土砂災害の背景について考える。 【問】広島市の人口増加により、宅地開発されたのはどのような地域だろうか？	・宅地開発と土石流の被害の関連について確認する。	・地理院地図で広島市安佐南区の自然災害伝承碑の位置を生徒に提示し、2014年8月豪雨に関する伝承碑がみられることを確認する。



◆指導にあたって：

○地理的分野の授業では、地形図や統計の活用など資料活用能力を高めさせることも目標の一つとしてい。教科書には、1898 年、1950 年、2012 年の地形図が掲載されており、デジタル教科書のデータを活用することで、広島市の地域の変化をとらえることができる。本時では、既習事項である日本の地形の復習から広島市へとつなげ、授業を展開することを意図した。

○生徒たちの話し合いは、グループごとで行う。教師は机間巡視により、各グループの話し合いの様子を把握し、生徒の学びが深まっているかどうかを観察し、適宜助言を与えるようにしたい。

○国土地理院は、新しい地図記号「自然災害伝承碑」(右図)をつくり、2019 年 6 月から地理院地図上で公開した。

広島市の拡大とともに、市街地が丘陵地に広がったが、2014 年 8 月の豪雨で発生した土石流により、多数の犠牲者を出すことになった。都市開発の問題点についても新聞記事などを活用して、生徒に考えさせたい。

→「自然災害伝承碑」
の地図記号



◆デジタル教科書活用のねらい：

○デジタル教科書では、写真など資料のタイトルを表示させずに生徒に提示できる点を有効に活用したい。

○地形図のスライド機能(p.193)を上手に活用し、生徒の意見を学級全体で共有できるようにして、グループワークの意義を生徒に実感させるとよい。デジタル教科書の活用により、日常の授業での「主体的・対話的で深い学び」は実現しやすくなるのではないだろうか。



↑スライド機能をはたらかせた場面(「1950 年ごろ、2012 年ごろの広島市」)

◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

○広島市の土砂災害が、都市化とどう関わっているのかを考えさせることで、教科書の記載事項を深めることができる。

○歴史的分野の学習との関連づけにも留意したいところである。年間指導計画を工夫して、「日清戦争」と軍都広島形成や被爆都市ヒロシマの被害についてもとらえることができるとよい。

★地形図のスライド機能

・同一場所の変化を読み取ることができる。

…画面下のバーを左右にスクロールすると、2枚の地形図の同じ場所が左右にスライドする。

…河川の流路など、あらかじめ注目するポイントを決めるのもよい。

・教科書掲載の地形図の範囲よりも広範囲が掲載されている。

…画面横のバーを上下にスクロールすることも可能。

◆**単元名**：第2章 原始・古代の日本と世界 4節 貴族社会の発展

「⑫木簡と計帳は語る」(教科書 pp.44-45)

◆**本時の目標**：

班田収授の法や租・調・庸のしくみについて理解するとともに、律令制の進展が、貴族や豪族と農民の暮らしをどのように変化させ、それらがどのように結びついているか考察する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (10分)	●4節の問いを提示する。 【問】大陸から伝わった文化や制度は、日本の社会にどのような変化をもたらしたのだろう。	・①権力を伸ばすのはだれか、②文化はどう変化するか、の2点について、これまでの学習内容や、小学校の学習事項を根拠として予想させる。	・前時までの教科書のページをスクリーンに提示する。
展開 (35分)	本時の問い: 律令制のもとで、貴族や農民の生活はどのように変化していったのだろうか。		
	●平城京の成立について学習する。 ●律令制の進展により、①貴族や豪族、②農民の生活はどのように変化したか、3～4人のグループで①、②を分担して調べる。 ●それぞれの立場から調べた内容を発表し、学習内容を共有する。	・本時の学習の年代を確認させる。 ・それぞれの暮らしの特徴と、その背景となる歴史的事象を、分担してまとめさせる。教科書、資料集のどの資料を根拠としたか明記させる。 ・貴族の生活が農民の税により支えられたこと、農民の重い負担が逃亡につながり、墾田永年私財法制定の背景となったことなど、歴史的事象の結びつきを確認させる。 ・数名に、どのような資料を根拠に考察したか発表させる。	・デジタル教科書 p.44 の見出しを拡大して提示する。 ・NHK for School 動画リンクから、「平城京」の動画を視聴する。 ・p.44 資料①「平城京」を、長安城、藤原京と並置して提示する。 ・デジタル教科書 p.45 資料⑨、⑩「貴族と庶民の食事の例」や p.45 資料⑦「計帳に記された内容」等を提示する。 ・資料を拡大して提示し、ペン機能で重要な箇所を強調する。
まとめ (5分)	●本時の学習をまとめ、節の問いに対する振り返りを行う。	・冒頭で立てた予想と異なっていた点や、新たに学習した点に着目して振り返りシートに記入させる。	

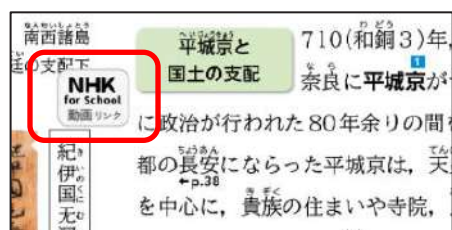
◆指導にあたって：

○学習内容が多い歴史的分野において、現行学習指導要領で求められる「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動」と、その土台となる基礎的な知識の習得を両立するためには、1単位時間の中で、教えること、考えさせることのメリハリをつけることが重要である。この単元の前半では、動画コンテンツの活用や視覚資料の提示を通して、必要な知識の習得を効率よく行う。それによって、節の学習を見通したり振り返ったりする活動や、資料を根拠として貴族や豪族・庶民の生活の変化について考察する活動など、「考えさせる」時間を確保したい。

○社会科の資質・能力全体に関わるとされる「社会的な見方・考え方」を働かせるためにも、デジタル教科書の強みを生かすことが有効であると考え。デジタル教科書を活用すれば、生徒に注目させたい資料を自在にスクリーンに投影できる。この授業では、どの年代を学習しているかが一目でわかる「見出し」のほか、奈良時代の計帳の内容（資料[7]）、貴族と庶民の食事の例（資料[9]、[10]）など、律令制の進展による貴族や庶民の生活の様子に関する資料を提示する。社会的事象の歴史的な見方・考え方の最初のステップである「時期」「推移」について、資料を基に考察させたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

○平城京の成り立ちについて理解し、奈良時代の都の様子への関心を高めるために、NHK for School の動画や、p.44 資料[1]「平城京」の資料を活用する。NHK for School の動画には、デジタル教科書上のアイコンから、直接アクセスすることができる。また、p.44 資料[1]は、拡大して「関連資料」→「並置」のアイコンを選択すると、藤原京や唐の長安城の図を平城京の様子と並べて示すことができる。これにより、当時の都が中国にならって建設されたことや、そのスケールの大きさについての理解を助けることが期待される。



↑デジタル教科書 p.44
NHK for School の動画リンクのアイコン

→長安城、藤原京、平城京を並置した画面

資料[1]「平城京」をクリック
→右下「関連資料」ボタン
→「並置」ボタン



◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

○各本時ページの「語句まとめ」の機能は、「学習のまとめと表現」の学習時に使って学習内容を全体で振り返らせたり、次の時間の最初に使って復習させたりすることで、知識の習得を促すことができる。内容を提示して語句を答えさせることも、語句を提示して内容を説明させることもできるため、生徒の実態や発達段階に応じて工夫して活用したい。

◆単元名：第5章 日本の近代化と国際社会 5節 近代の産業と文化の発展

「②近代産業を支えた糸と鉄」(教科書 pp.196-197)

◆本時の目標：

日本では 19 世紀末に製糸・紡績などの軽工業を中心に産業革命が進み、資本主義が確立したことや、20 世紀に入って重工業も発達したことを理解するとともに、工業化の進展が都市や農村の生活にもたらした影響について考察する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	● 5 節の問いを提示する。 【問】近代化は、人々の生活や文化にどのような変化をもたらしたのだろうか。	・ 4 節までの学習や、既存の知識を根拠として予想させる。 ・ 特に産業、文化に着目させるために、p.196 資料①で示された会社を設立した渋沢栄一を紹介し、生徒の関心を引き出す。	・ デジタル教科書 p.196 資料①や渋沢栄一の顔写真、新しい 1 万円札のデザインをスクリーンに提示する。
展開 (40分)	本時の問い：日本の近代産業は、いつごろ、どのように発展していったのだろうか。		
	● p.196 資料②のグラフから、19 世紀末以降に発展した産業を大まかにとらえる。 ● p.196 資料③と p.162 資料②のグラフを比較し、19 世紀末の輸出入品の特徴を考える。 ● 日清戦争後に重工業が発展した背景と影響について考察する。	・ 軽工業、重工業がそれぞれ大きく発達した時期を読み取らせる。 ・ 生糸や綿製品が明治時代の重要な輸出品であったこと、産業革命が繊維工業から始まっていったことを確認させる。 ・ 「鉄の生産はいつごろ大きく増えたのか」「なぜ、その時期に生産が伸びたのか」と問い、戦争や鉄道網の発達と日清戦争の因果関係に気づかせる。	・ デジタル教科書 p.196 資料②をスクリーンに拡大し、凡例ごとに提示する。 ・ デジタル教科書 p.196 資料③と p.162 資料②のグラフを並置して提示する。 ・ デジタル教科書 p.197 資料⑤を拡大し、凡例を操作して鉄道網が広がる様子を提示する。
まとめ (5分)	● 本時の学習をまとめ、節の問いに対する振り返りを行う。	・ 工業化の進展による光の面を確認するとともに、イギリスの産業革命が社会に与えた影響を想起させ、次時の予告につなげる。	

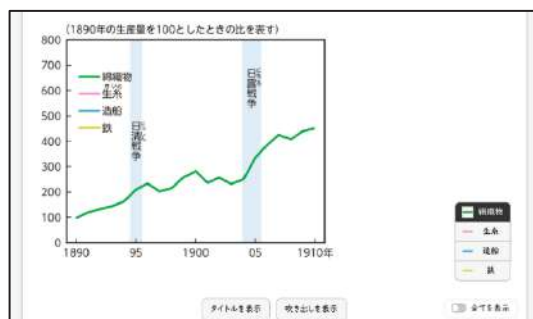
◆指導にあたって：

○本単元では、明治時代以降、特に日清戦争前後の産業の発達を扱う。産業の発達については、中世以降の各時代で取り扱う内容であるが、それぞれの時代背景との関連をとらえさせたり、生徒の生活経験と結びつけたりすることが難しく、具体的に想起させにくい。本単元では、デジタル教科書の機能を用いて、写真・動画資料の提示やグラフの比較を行うことで、明治時代の産業の発達について、具体的なイメージをもたせながら指導を進めることをねらいとしている。

○歴史的な「見方・考え方」を生徒の発達段階に応じて深めていくという視点から、歴史的分野の後半に差し掛かる本単元では、背景・結果・影響など、事象相互のつながりに着目させていきたい。具体的には、20世紀に入ってから日本で重工業が発展していった背景は何か、日本の産業革命の進展が人々の生活にどのような影響を及ぼしたのかなど、歴史的事象同士を結び付け、因果関係について考えさせる。その際、デジタル教科書の資料表示機能も有効に活用したい。

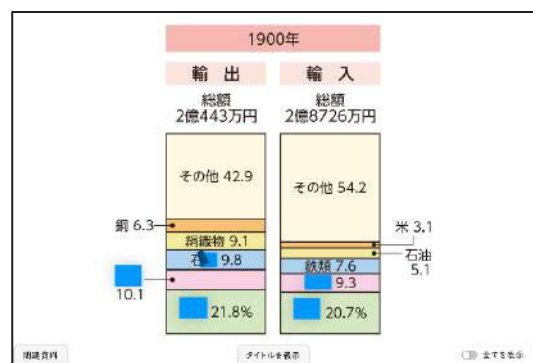
◆デジタル教科書活用のねらい：

○授業の序盤では、p.196 資料[2]を拡大して提示する。このグラフは、凡例ごとの提示が可能である。「四つの産業の中で最も生産が伸びたのはどれだろうか」「戦争の時期に生産量が伸びるものは何か、それはなぜか」といった問いかけを行いながら授業を進めることで、生徒にグラフの形を予想させ、課題意識をもって授業に参加させることができる。



↑ デジタル教科書 p.196
資料[2]「工業の生産量の移り変わり」

○p.196 資料[3]は、拡大するとグラフの品目が隠されて表示される。生徒の反応に応じてはくり紙をクリックして消したり、ドラッグして剥がしたりすることができるため、品目を予想させたり復習させたりすることが可能である。
またこのグラフは、p.162 資料[2]の開国直後の「輸出品・輸入品の割合」のグラフと並置することが可能である。これにより、開国から30年あまりで輸出入品の内容が変化したことを視覚的に理解させることができる。



↑ 日清戦争後(p.196)と開国直後(p.162)の
輸出品・輸入品の割合を並置した画面

◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

○p.197 資料[4]には、NHK for School の八幡製鉄所の動画へのリンクが掲載されている。八幡に製鉄所が建設された背景について、当時の映像を交えて簡潔にまとめられており、明治時代の重工業の発達について、より具体的にイメージできるものと思われる。

○次時（社会問題の発生）と併せて、日本の産業革命の進展をどのように評価するか、意見交換や討論を行うことも可能である。イギリス産業革命や現代の労働環境改善に向けた動きにもつながる単元であり、この問題について価値判断を行いながら考えていくことは、歴史の学習を通して現代社会について考察する際に大いに役立つと考える。



◆**単元名**：第1章 私たちの暮らしと現代社会 1節 私たちが生きる現代社会
「③誰もが活躍できる社会へ」(教科書 pp.18-19)

◆**本時の目標**：
合計特殊出生率の減少と平均寿命の延伸の影響により、日本が超高齢社会になったことをとらえ、「世代を超えてつながり、ともに生きる社会の実現」に向けた展望と課題について、多面的・多角的に考察する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	●資料④を見て読み取る。 【問】日本が第1位のこのグラフは、何の割合を示したグラフだろうか。 【問】なぜ日本の高齢化率は上昇しているのだろうか。	・テーマを予想させながらグラフを見せていき、日本の高齢化率が世界第1位であることに着目させる。 ・日本の高齢化率が上昇している原因について、地理での学習を振り返りながら考えさせる。	・デジタル教科書 p.18 資料④ 「高齢化率の国際比較」をスクリーンに映し出す。棒グラフを順に表示したあと、最後にグラフのタイトルを表示する。
展開 (35分)	【問】日本の人口や人口構成は、今後どのように変化するだろうか。グラフを参考に予想しよう。 【問】「世代を超えたつながりがもたらす効果や課題」について、次の①～④の視点からグループごとに考察しよう。 ①家族（子育て、介護等） ②地域（交流スペース、見守り活動、伝統文化等） ③社会保障（年金、医療等） ④情報社会 ●共同編集ができるアプリ等を用いて発表スライドに意見を書き込む。 ●整理した内容を、グループごとに発表する。	・「人口ピラミッド」と「合計特殊出生率の推移」を関連付けて読み取るように指導し、日本の人口減少が進んでいる現状をとらえさせる。 ・増加する一人暮らしの高齢者に、地域や社会保障、情報社会がどのようにつながり、社会を支えているのか、多面的に考察させる。 ・「小学生の通学を見守る高齢者」の写真を参考に、世代を超えて助け合うことの大切さに気づかせる。 ・グループ内の話し合い活動は、言葉による表現が苦手な生徒を考慮し、発表スライドに意見を書き込みながら整理していく形でも良いことを理解させる。	・デジタル教科書 p.18 資料③ 「子どもの出生数と合計特殊出生率の推移」、p.19 資料⑤「総人口と年齢別人口の割合」（人口ピラミッド）をスクリーンに映し出す。 ・デジタル教科書 p.19 資料⑦ 「一人暮らしの高齢者の数の推移」、資料⑧「朝の見守り活動をする高齢者」をスクリーンに映し出す。 ・1人1台端末を活用して、考察した内容についてグループごとに簡単な発表スライドを作成し、スクリーンに映し出す。 （*作成に際しては、Google や Microsoft®などのアプリ等を適宜活用・併用されたい。）
まとめ (10分)	【問】「世代を超えてともに生きる社会」では、どのようなことが求められるだろうか。 ●個人で意見をまとめる。	・各グループの「世代を超えたつながりがもたらす効果や課題」を参考に、協働学習の成果をさらに広げ、考察が深まるように指導する。	

◆指導にあたって：

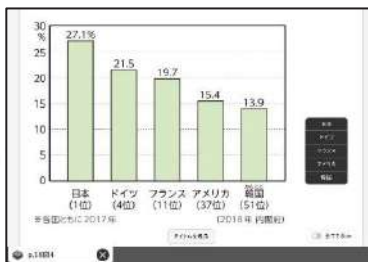
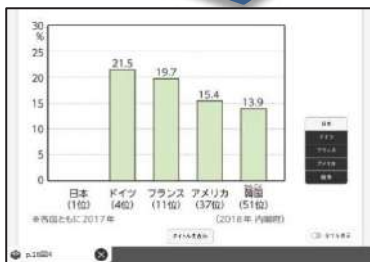
- 本時では、p.18 の LOOK ! にある「世代を超えたつながりの場」をキーワードに授業を計画した。特に、p.19 資料[7]「一人暮らしの高齢者の数の推移」のグラフからは、高齢者の地域社会からの孤立や孤独感から生じる「孤独死」防止への対応、特殊詐欺による犯罪被害からの保護、高齢者を取り巻くさまざまな課題への対策が求められることに気づかせたい。
- 家族内での介護や子育ての手伝い、地域における伝統文化の継承においてなど、高齢者とは身近な場面で「直接的」なつながりがある。その一方で、働く世代と高齢者世代との間の「社会保障」を通じた「間接的」なつながりなどもあることに気づかせ、世代を超えてともに生きていく中で、どのような効果と課題があるかを考察させたい。さらに、前時 (pp.16-17) の「情報社会」の学習もふまえ、「世代を超えたつながり」にインターネットがどのような効果をもつのかを考察させるとともに、デジタルデバイド (情報格差) によって生じる世代間格差についても考えさせたい。それぞれの立場や視点から、多面的・多角的な考察を協働的に行えるように指導していきたい。
- 教科横断的な視点から、家庭科の「世代を超えた交流」や「異なる世代の人々の関わり」や、保健体育科の「個人の健康と社会の取り組み」などの学習内容を生かすことができる。他教科での既習内容とのつながりも意識させたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- 導入では、「高齢化率の国際比較」のグラフを映し出し、棒グラフを順番に表示する機能を利用して、生徒の予想を交えながら学習内容への関心を高めていきたい。また、p.18 資料[1]『『になニーナ』での人々の交流』や、p.19 資料[8]「朝の見守り活動をする高齢者」の写真を映し出すことで、「世代を超えたつながり」の良さや効果について生徒が相互に意見を出し合える場をつくりたい。

【発問】「世界各国の比率から予想されるこのグラフは何だろう?」「日本は何%くらいだろう?」

【発問】「世代を超えたつながりの良さは、どのようなことだろう?」



◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

- 「社会的な見方・考え方」を養うために、棒グラフや折れ線グラフ、人口ピラミッド、写真などの資料から読み取れる内容について、生徒が相互に関連づけていけるよう指導したい。



授業にピタッ！とデジタル教科書

公民

② 政治の学習でのデジタル教科書活用例 ～グラフ資料や動画を活用した思考の深化と共有

(東京都公立中学校 教諭)

◆**単元名**：第3章 私たちの暮らしと民主政治 1節 民主政治と日本の政治

「⑤マスメディアと政治」(教科書 pp.92-93)

◆**本時の目標**：

民主政治の担い手である主権者が、政治や社会問題に対する情報を共有し世論を形成するために、マスメディアが果たす役割や責任について理解を深める。多様なメディアを通じて情報発信が行われる現代において、情報がもたらす相互作用と問題点について考察する。

《本時の展開例》

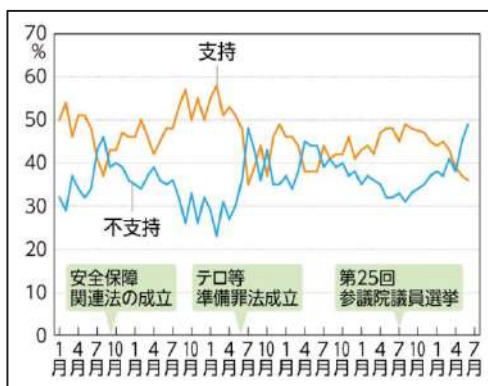
	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	【問】内閣支持率はなぜ変化するのだろうか。(p.92 資料②) :大きな出来事があった時期に、支持率が変動する点に着目。	・日ごろのニュースなどもふまえ、内閣支持率がどのような時に変化するか、予想をして意見を出し合わせる。	・デジタル教科書 p.92 資料② 「内閣の支持率の推移 (2015～20 年)」をスクリーンに映し出す。
展開 (35分)	【問】国会前にいる人々は、情報をどのように得て集まったのだろうか。(p.54 資料④) ●メディアの情報が世論をつくる一方、世論調査が選挙や政策に影響することを確認する。 ●NHK for School の動画「マスメディアと政治」を視聴する。 ●年齢階層別のメディアの信頼度のグラフ (p.92 資料④)を読み取り、信頼度が低い原因について、近くで意見を出し合う。 【問】世論形成に関わるメディアは、なぜ次の A～E を大切にするのか、一つ選び「信頼」という言葉を使って答えよう。 A 公平性 B 正確な情報 C 速報性 D モラル (倫理性) E 報道の自由の保障	・マスメディアやソーシャルメディアが人々の考えや行動に影響を与えることに気づかせる。 ・マスメディアは、国民と政府の双方向へ情報を媒介する役割をもち、大きな責任があることに気づかせる。 ・特に「30 代以下」のメディアに対する信頼度の低さに着目させ、日ごろのニュースの受け取り方などもふまえ、原因について考えさせる。 ・アンケート機能のアプリなどを活用して意見を収集し、結果をスクリーンや生徒の端末に表示したりして意見を共有する。 ・A～E に問題がある場合に、どのような影響があるかについても考えさせたい。	・デジタル教科書 p.54 資料④ 「国会前で行われたデモに集まる大勢の人々」をスクリーンに映し出す。 ・デジタル教科書 p.93 資料③ 「世論の形成と国民の政治参加の主な手段」と、p.92 のリンクから、「NHK for School」の動画を順次映し出す。 ・デジタル教科書 p.93 資料④ 「年齢階層別のメディアへの信頼度」をスクリーンに映し出す。
まとめ (10分)	●自分と他者の意見を比較したり関連づけたりすることで、マスメディアの役割と責任について理解を深める。	・本時の成果を、次ページの特設「メディアリテラシーを学ぼう」の学習につなげる。	

◆指導にあたって：

- 本時の導入と展開では、学習内容とメディアに対する日頃の生徒の実感を大切にしたい。生徒から出された意見は、教科書 pp.6・10「各種メディアの特色を整理しよう」の媒体ごとの長所と短所や、教科書 pp.94・95「メディアリテラシーを学ぼう」と関連づけることで、マスメディアと政治の関わりについて、さらに深い理解につなげていけると思われる。
- これからの社会を生きる生徒たちは、インターネットの情報の真偽や情報源に留意するとともに、他者のコメントやシェアされた情報に対して慎重に接する姿勢が求められる。また、個人の検索履歴や他者とのつながりから最適化された情報が、「フィルターバブル（情報の遮断機能）」となって情報を遮ることがあり、政治に関する情報や多様な意見に接する機会が限られてしまうことにも気づかせたい。
- 海外では、例えば「アラブの春」の際にソーシャルメディアが世論に大きな影響を与えたが、その力を警戒した国家が監視や情報統制を強める動きも見られる。アメリカでは、選挙運動とソーシャルメディアが密接につながり、人々の意見や行動がビッグデータとして分析・活用される一方で、自動化された bot（ソフト）が、人を装って意見を投稿したりフェイクニュースを拡散させたりして、有権者を欺く行為が社会問題となっている。Society5.0 を前に、信頼ある情報を基盤に民主主義の根幹である世論をいかにして形成していくか。近い将来の日本の姿を想像させながら、望ましい世論の形成と進化する情報社会のあり方について考えさせていきたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- グラフをスクリーンに映し出して、読み取った内容について生徒が相互に意見を出し合える場をつくらしていきたい。また、生徒の関心が高まる授業の中盤で、学習内容の整理として動画を視聴する。



縦軸と横軸の数値に注意するように促しながら、支持率変動の背景にある政治の動きを想像するように指導していく。

動画は2分程度で編集されている。適宜メモを取りながら視聴するように指示をする。



◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

- 教科書 pp.16・17 の「急速に進展する情報社会」や、p.86 の LOOK ! にある「インターネットを利用した選挙運動や情報の充実化」などの既習内容と関連づけることで、情報社会の進展が政治にも影響していることに気づかせることができる。
- 本時の学習内容は、言論の自由や知る権利のほか、通信の秘密の保障や行政機関による情報公開制度、特定秘密保護法など、具体的な権利や制度、法律などと関連づけることで、さらに生徒の理解を深めることができるだろう。

授業にピタッ！とデジタル教科書

公民

③ 経済の学習でのデジタル教科書活用例 ～資料を相互に関連づけてさらに理解を深める

(東京都公立中学校 教諭)

◆**単元名**：第4章 私たちの暮らしと経済 2節 企業の生産のしくみと労働

「③株式会社ってなんだろう」(教科書 pp.140-141)

◆**本時の目標**：

株式会社の仕組みを理解すると共に、身近な会計の例から信頼性が確保された会計情報が果たす役割について考察し、理解を深める。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	【問】これまでに自分で会計を行ったり、会計を見たりしたことがあるだろうか。会計の記録や報告は、何のためにやるのだろうか。	・修学旅行の会計記録や、家計簿の記載、部費の会計、町内会の会計など、身近な場面にさまざまな「会計」があることに気づかせる。	
展開 (35分)	●企業にも会計があることを確認する。表計算ソフトで「損益計算書」の売上原価や売上高などの数値を変え、「当期純利益」の変化から黒字や赤字になることを確認する。 ●資料②「株式会社のしくみ」から、企業における株主総会の役割や、株式の購入で資金を出資していることを確認する。 ●「財務諸表」が株式を購入する際の重要な判断材料になっていることにつなげる。 【問】企業の「財務諸表」が公開されなかったり、間違いや粉飾があったりすると、どうなるだろうか。 【問】「会計情報」や資料⑤、⑥から企業の社会的責任(CSR)とはどのようなものか説明してみよう。	・教科書の資料④「損益計算書」と同じ数値を、あらかじめ数式を組んだ表計算ソフトに入力しておき、具体的な場面を生徒と想定しながら、「当期純利益」の変化を確認していく。 ・株主は総会で議決権を持つほか、配当などによって利益の一部を得られる一方、倒産した場合は出資金を失う、有限責任があることにも着目させる。 ・生徒の回答を集約しながら、会計情報には「信頼性」が求められるということにつなげていく。 ・教科書の写真資料から、企業は利潤の追求だけでなく、社会貢献活動も行っていることに着目させる。	・デジタル教科書 p.141 資料④「財務諸表の種類と損益計算書の例」と、表計算ソフトに教科書の損益計算書と同じ数値を入れたものを、それぞれスクリーンに映し出す。 ・デジタル教科書 p.140 資料②「株式会社のしくみ」をスクリーンに映し出す。 ・デジタル教科書 p.141 資料⑤「ランドセルは海を越えて」、⑥「株主を招いて行われた、ぶどうの植え付け指導」をスクリーンに映し出す。 ・デジタル教科書 p.141「表現！」をスクリーンに映し出す。
まとめ (10分)	●CSRについて書いた説明文をグループで発表し合う。 ●挙手によって生徒に適宜発表させ、学習全体を振り返る。	・企業が社会の中で利潤を追求していくためには、「信頼性」を高めていくことが重要であることに気づかせる。	

◆指導にあたって：

- 現行の学習指導要領では、「起業」とともに「会計」が初めて取り扱われた。本時では、株式会社のしくみとともに、「信頼性」が確保された会計情報が果たす役割について理解することをねらいとした。
- 株式会社は、株式市場や銀行から多額の資金調達を行うことから、財務諸表の作成・報告を通じて会社の健全性を示す社会的責任を負っている。財務諸表は、株主や債権者などの利害関係者が、投資や融資を判断する根拠として、企業の安全性や収益性、効率性、成長性などを読み取る資料である。そのため財務諸表には「信頼性」の確保が求められる。財務諸表の信頼性は、金融商品取引法や公認会計士法、会社法などの法律によって担保され、株式市場全体の信頼と活発な経済活動の実現につながっている。
- 本時では、財務諸表の内容には深入りせず、会計情報が確保する「信頼性」に視点を置き、生徒にとって身近な例をもとに展開しようとした。部活動の部費や町内会費など、「人々から集められたお金がどのように使われたのか」という説明責任は、「信頼性」や報告義務の観点から、株式会社の健全性を示すための説明責任に通じる部分があるにとらえられる。私たちの暮らしと経済を成り立たせる一つの要素として、「信頼性」があることを理解させたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- 資料4「財務諸表の種類と損益計算書の例」は、資料2「株式会社のしくみ」のどの部分に関連するか、スクリーンに映し出して、クラス全体で考えさせることをねらいとする。



The screenshot shows a digital textbook interface. On the left, there is a table of contents for '財務諸表' (Financial Statements). On the right, there is a '損益計算書' (Profit and Loss Statement) for '〇〇会社' (Company). The statement shows expenses and income in millions of yen.

費用	金額	収益	金額
売上原価	1500	売上高	3600
給料	1000	受取手数料	400
旅費交通費	500		
通信費	300		
支払利息	200		
当期純利益	500		
合計	4000	合計	4000

表計算ソフトで数値を動かす

The screenshot shows a spreadsheet software interface with a '損益計算書' (Profit and Loss Statement) for '〇〇会社' (Company) for the period from January 1, 2000, to December 31, 2000. The data is entered into a table with columns for expenses and income in millions of yen.

費用	金額	収益	金額
売上原価	1500	売上高	3600
給料	1000	受取手数料	400
旅費交通費	500		
通信費	300		
支払利息	200		
当期純利益	500		
合計	4000	合計	4000

企業が利潤追求だけでなく、人々の支援を行っていることに気づかせる。

材料費が上がれば、売上原価が上がるね。

テレワーク推進で交通費を減らし、通信費を100上げてみよう。

販売量が増えて売上高が上がった！広告宣伝費を入れれば、さらに売上高は上がるかな。

◆授業の改善案・さらに活用するポイント：

- 教科書 p.146「起業にチャレンジしてみよう」で「仮想の企業」をつくる際、表計算ソフトを使って損益計算書の費用を入力し、事業内容について他の生徒から評価された数に応じて売上高を増加させていく方法で、損益計算書をつくる活動に取り組むこともできるだろう。

まっぴんぐま
＼ からのお知らせ！ ／



フォトまっぴんぐサイトへの
投稿もお待ちしています！

ご応募もこちらから→



今後も役立つ情報をお届けしていきます。
ぜひご注目ください！



教育出版
中学校社会の
ウェブサイト！

 教育出版株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明 3-4-10 TFT ビル西館

TEL:03-5579-6278 (代表)

